

## 研究室だより

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

- 坂田薫子氏は、4 月、学生生活部長に就任。
- 高梨博子氏は、4 月、教授に就任。
- 奥畑豊氏は、4 月、講師に就任。
- 川端康雄教授は、2020 年 4 月、「新型コロナ時代に、ジョージ・オーウェルが再び注目される理由——「ディストピアの言語」とは何か」を『現代ビジネス』（オンライン）に執筆。
- 馬場聡准教授は、4 月、『アエラ』（朝日新聞出版）4 月 6 日号「ボブ・ディラン道 深く遠い道のり」に企画協力。
- アン・スレイター教授は、5 月、小説“Travelers”を *Tricycle magazine* Summer 号に執筆。
- アン・スレイター教授は、5 月 8 日、A Memoir Writing Workshop for the Princeton University Alumni Associations of France and the UK にてワークショップ“Writing the Self”を行う。
- アン・スレイター教授は、6 月 4 日、エッセイ“Tibetan Death Horoscopes, Mothers and Daughters, and Legacy-Breaking”を *Catapult magazine* に執筆。
- アン・スレイター教授は、6 月 23 日、エッセイ“Family Connection in a Teapot”を *The New York Times* に執筆。
- ダグラス・フォスター教授は、6 月 28 日、“Using Nudges to Boost Big Reading”を *Extensive Reading World Congress Proceedings. Vol. 5* (JALT Extensive Reading) に共同執筆。
- 藤永康政教授は、6 月 21 日、「リベラルたちの刑罰国家と BLM の挑戦」を京都大学人文科学研究所主催緊急リレートーク「ブラック・ライヴズ・マター運動の背景と課題」にて講演。
- 川端康雄教授は、7 月、『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』を岩波書店より刊行。
- アン・スレイター教授は、7 月、“Porochista Khakpour: I’ve Become Uninterested in Darkness”を *Guernica magazine* に執筆。
- 高梨博子教授は、7 月、「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性——からかいのプレイから——」を『動的語用論の構築へ向けて 第 2 巻』（開拓社）に執筆。
- 藤永康政教授は、7 月、「ブラック・ライヴズ・マター蜂起の可能性——「刑罰国家」アメリカとレイシズム」を『世界』第 935 号に執筆。
- 馬場聡准教授は、7 月「ディズニーと異世界物語 1」を『ディズニーファン』（9 月号、講談社）に執筆。
- 加藤彩雪助教は、7 月、「フリーダ・ロレンス (1876–1956) 恋愛を手段とした自己形成」を『わたくしを生きた女性たち——二〇世紀イギリスの女性評伝集』（音羽書房鶴見書店）に執筆。

- 奥畑豊講師は、7月6日、「Angela Carter, *Several Perceptions*における政治の不在／不在の政治学——ヴェトナム戦争と狂気」を日本英文学会第92回全国大会（オンライン開催）にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、7月19日、“Where We Come from and Where We’re Going”, a Princeton University author talk about my memoir and its themes of identity, alienation, and belonging（オンライン開催）にて講演。
- アン・スレイター教授は、7月23日、ワークショップ“The Power of Writing: Finding Your Voice”をHEC International Business School, Paris, Franceにて行う。
- 川端康雄教授は、8月、共訳書『暗い世界——ウェールズ短編集』を堀之内出版より刊行。リース・デイヴィス「暗い世界」の翻訳を担当。
- 川端康雄教授は、8月、「ケルムスコット・プレス刊本の詩集」を『日本女子大学図書館だより』第168号に執筆。
- アン・スレイター教授は、8月、エッセイ“In the Cave”を*Kyoto Journal* Issue 98に執筆。
- 馬場聡准教授は、8月、「ディズニーと異世界物語2」を『ディズニーファン』（11月号、講談社）に執筆。
- 馬場聡准教授は、8月、『アエラ』（朝日新聞出版）8月24日号「マスクは弱さと悪の象徴——アメリカ社会がマスク着用で分断」に企画協力。
- アン・スレイター教授は、9月、エッセイ“How a Tibetan Turquoise Pendant Keeps Me Close to Home”を*Catapult magazine*に執筆。
- 大場昌子教授は、9月6日、「ソール・ペローのシカゴ——「銀の皿」論」を第32回日本ソール・ペロー協会大会（オンライン開催）にて口頭発表。
- 井上亜紗助教は、9月6日、「重ね書きされる〈アメリカの風景〉——「未来の父親」「この日をつかめ」のニューヨーク」を第32回日本ソール・ペロー協会大会（オンライン開催）にて口頭発表。
- 松森晶子教授は、10月、日本学術会議第25期の連携会員に就任。
- 内山加奈枝准教授は、10月、日本比較文学会東京支部幹事に就任。
- 川端康雄教授は、10月、「エッセー——『赤い闇』のオーウェル」を『文学界』第74巻第10号に執筆。
- 川端康雄教授は、10月、「コロナ以前」の旅——二〇一九年、テムズ川週行とヴェネツィアのラスキン学会」を『ラスキン文庫だより』第80号に執筆。
- アン・スレイター教授は、10月、エッセイ“My Father, Montaigne, and the Art of Living”を*Catapult magazine*に執筆。
- アン・スレイター教授は、10月、“Beyond Shangri-la,” an interview with Oxford University professor Clare Harris を*Tricycle magazine* Winter号に執筆。
- 藤永康政教授は、10月、「揺れ動くアメリカの中道——ブラック・ライブズ・マター時代の民主党」を『世界』第938号に執筆。
- 藤永康政教授は、10月、「チェョーカーの拳——ブラック・パワーとブラック・ライブズ・マター」を『現代思想』第48-3号に執筆。
- 馬場聡准教授は、10月、「ディズニーと異世界物語2」を『ディズニーファ

- ン』（講談社）10月号に執筆。
- 早野薫准教授は、10月、「Sequence organization: A universal infrastructure for social action」を *Journal of Pragmatics* 第168号に共著にて執筆。
  - 奥畑豊講師は、10月、「ビッグ・ブラザーからビッグ・マンへ——オーウェル、ナイポール、開発独裁」を『比較文化研究』第141号に執筆。
  - 奥畑豊講師は、10月、マイケル・サレイ著「イシグロの名声」を『カズオ・イシグロと日本：幽霊から戦争責任まで』（水声社）を翻訳執筆。
  - アン・スレイター教授は、10月2日、ワークショップ“Pitching Your Work While Nourishing Your Creative Practice”を Narrative Healing Program, New York オンラインにて行う。
  - 藤永康政教授は、10月14日、「ブラック・ライブズ・マター〜その背景を探る」を NGP ピースポートにて招待講演。
  - ダグラス・フォスター教授は、10月17日、“Story-Centric Language Teaching—Focus on Form”を日本英語コミュニケーション学会第29回年次大会（オンライン開催）にて発表。
  - 川端康雄教授は、10月23日、TBS ラジオ「荻上チキの Session」に出演、「映画『キーパー ある兵士の奇跡』が描く戦争と和解とは？」をテーマに解説。
  - アン・スレイター教授は、10月26日、Princeton Women in Media and Technology 主催の講演会にて“*What Our Family Histories Can Teach Us About Ourselves*”をオンラインにて講演。
  - 藤井洋子教授は、11月、『場とことばの諸相』（ひつじ書房）を共編にて出版。
  - 藤井洋子教授は、11月、「日本語の「場」志向性と述語主義を考える——英語との比較から——」を『場とことばの諸相』（ひつじ書房）に執筆。
  - アン・スレイター教授は、11月、エッセイ“*My Great-Grandfather’s Saddle Rug Helps Me Remember a Tibet That’s Gone*”を *Catapult* magazine に執筆。
  - 内山加奈枝准教授は、11月、「ポール・オースターの『ブルックリン・フォリーズ』における遺産の継承——「引用」と「対話」が紡ぐジュエイッシュ・コミュニティ——」を『ジュエイッシュ・コミュニティ：ユダヤ系文学の源泉と空間』に共著にて執筆。
  - 馬場聡准教授は、11月、「ディズニーと異世界物語 3」を『ディズニーファン』（講談社）11月号に執筆。
  - 馬場聡准教授は、11月、『ブラック・ライブズ・スタディーズ——BLM 運動を知る15のクリティカル・エッセイ』（三月社）の編集者をつとめ、「海底二万里のテロリスト——ジュール・ヴェルヌの奴隷制批判」を執筆。
  - アン・スレイター教授は、11月3日、*The Health Logic Podcast*, “Improving the Patient Experience: Perspectives from Japan”にインタビュー形式で出演。
  - 高梨博子教授は、11月7日、日本英語学会第38回大会（オンライン開催）の研究発表にて司会を務める。
  - 早野薫准教授は、11月7日、「形式と相互行為機能の適合：極性質問に対する応答の拡張に着目して」を日本英語学会第38回大会（オンライン開催）にて口頭発表。

- 高梨博子教授は、11月8日、日本英語学会第38回大会（オンライン開催）の特別講演にて司会を務める。
- 奥畑豊講師は、11月8日、「バラバラの身体——アンジェラ・カーター『魔法の玩具店』とロンドン大空襲」を日本英文学会関東支部第20回秋季大会（オンライン開催）にて口頭発表。
- 加藤彩雪は、11月8日、「オーストラリア『ブレテン』誌にみる政治的位相——文学的ミドルパワーの形成をめぐる」を日本英文学会関東支部第20回秋季大会（オンライン開催）にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、11月10日、“How to Make a Living as a Writer”をa Princeton University writers’ webinarにて講演。
- 川端康雄教授は、11月28日、日本ヴィクトリア朝文化研究学会第20回全国大会（リモート開催）のシンポジウム「芸術のための芸術／世界のための芸術——開かれた唯美主義の形態」にて司会・講師を務め、「唯美主義運動の「大義」——ウォルター・ハミルトン著『英国の唯美主義運動』（1882）をめぐる」を口頭発表。
- 早野薫准教授は、11月29日、「相互行為における認識性」を日本語用論学会第23回大会（オンライン開催）のシンポジウム『会話分析の基軸と展開』にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、12月、日本女子大学学長補佐に就任。
- 佐藤和哉教授は、12月、日本女子大学学長補佐に就任。
- 川端康雄教授は、12月、書評「横山千晶著『ジョン・ラスキンの労働者教育——「見る力」の美学』」を『英文学研究』第97巻に執筆。
- 高梨博子教授は、12月、“Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism”を *Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse* (John Benjamins) に執筆。
- 高梨博子教授は、12月、「対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析——ボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目して——」を『第35回日本観光研究学会全国大会学術論文集』に共著にて執筆。
- 馬場聡准教授は、12月、『英文学研究』97巻に藤野功一編『アメリカン・モダニズムと大衆文学——時代の欲望／表象をとらえた作家たち』（金星堂）の書評を執筆。
- 高梨博子教授は、12月5日、「対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析——ボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目して——」を日本観光研究学会第35回全国大会研究ワークショップ（オンライン開催）にて共同発表。
- 大学院英文学専攻課程協議会第54回研究発表会が、12月5日、青山学院大学にてオンライン開催された。本学大学院より、博士課程前期2年熊倉まや、博士課程前期2年青木優果が発表。アドバイザーとして、佐藤和哉教授、松森晶子教授、高梨博子教授が出席。
- 土屋智子准教授は、12月11日、“Multicultural/Multiracial Families with the

Idea of the Democratic Nation at the Beginning of the Cold War”を The 18th Maple Leaf and Eagle Conference (於 University of Helsinki、オンライン開催)にて口頭発表。

- 川端康雄教授は、12月12日、日本ワイルド協会第45回大会(リモート開催)にて司会・講師を務め、『『生活の藝術化』から『英國近世唯美主義の研究』へ——ラファエル前派、モリス、ワイルド』を口頭発表。
- 川端康雄教授は、1月、「「ふつうの人びと」への信と希望——新書版による初のオーウェル伝(『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』)」を『週刊読書人』2021年1月5日号に執筆
- 藤永康政教授は、1月、「学生非暴力調整委員会の誕生——黒人自由闘争の歴史(1)」を『思想』第1161号に執筆。
- 奥畑豊講師は、1月、*Angela Carter's Critique of Her Contemporary World: Politics, History, and Mortality*を Peter Lang より刊行。
- ビーター・ロビンソン准教授は、2月、“Book Advertising with a Cause: Publications of the Institute of Pacific Relations (IPR)”を *BKAS Essay Shorts* (Web article) に執筆。
- 早野薫准教授は、2月21日、“Epistemics in everyday conversation, epistemics in language classroom”を学術交流シンポジウム『英語学習の会話分析』(オンライン開催)にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、3月、「壽岳文章とウィリアム・モリス」を『向日庵』(NPO 向日庵)第4号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「著作紹介 川端康雄著『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』」を『日本女子大学図書館だより』第70号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ジョージ・オーウェル「イギリス料理」(1946年)」を共訳、共著にて『日本女子大学文学研究科紀要』第27号に発表。
- 川端康雄教授は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」(2)を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第70号に発表。
- アン・スレイター教授は、3月、“On Pandemic Writing, Journeys Within, and Creative Possibility”を *On Craft and Process* (a Princeton Arts Alumni multimedia platform) に執筆。
- 松森晶子教授は、3月、「北琉球祖語の祖形再建のころみ」を『日本女子大学紀要 文学部』第70号に執筆。
- ダグラス・フォスター教授は、3月、“The Need for Extensive Reading in Language Education”を『英米文学研究』第56号(日本女子大学英語英文学会)に執筆。
- 内山加奈枝准教授は、3月、「第57回東京大会シンポジウム傍聴記」を『日本比較文学会東京支部 研究報告』第16号に執筆。
- 内山加奈枝准教授は、3月、『比較文学』第63号に、外山健二著、『ポール・ボウルズ：越境する空の下で』の書評を掲載。
- 馬場聡准教授は、3月、『アメリカ文学研究』56巻に中山悟視編『ヒッピー世代の先駆者たち——対抗文化とアメリカの伝統』(小鳥遊書房)の書評を執筆。

- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、“Gertrude Jekyll and the Times Woman’s Supplement”を『日本女子大学紀要文学部』第70号に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、“Advertising English-language Books on the East: Tactics, Tropes, and Taboos”, *BKAS Essay Shorts* (Web article) に執筆。
- 奥畑豊講師は、3月、「プリストル三部作における政治の不在／不在の政治学——カーター、レイン、リフトン」を『日本女子大学大学院文学研究科紀要』第27号に執筆。
- 奥畑豊講師は、3月、「独裁制、女性たち、(架空の)パキスタン——Salman Rushdie, *Shame*を読む」を『日本女子大学紀要 文学部』第70号に執筆。
- 井上亜紗助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」(2)を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第70号に発表。
- 井上亜紗助教は、3月、“Holocaust Memory and Exhibitionists in *Mr. Sammler’s Planet*”を『英米文学研究』第56号(日本女子大学英語英文学会)に執筆。
- 加藤彩雪助教は、3月、「ルイーザ・ローソンと孤独——再評価に向けて」を『南半球評論』(オーストラリア・ニュージーランド文学会)第36号に執筆。
- 西貝真紀助教は、3月、“The Acceptance of Zen Buddhism and Japan–U.S. Relations in the Cold War America”を『英米文学研究』第56号(日本女子大学英語英文学会)に執筆。
- 花角聡美助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」(2)を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第70号に発表。
- 川端康雄教授は、2021年3月13日、朝日カルチャーセンター新宿教室にて講演「オーウェル『一九八四年』と希望のかけら」を行う。
- 高梨博子教授は、3月8日、International Symposium “Formulaicity in Interactional Discourse”(オンライン開催)のGuest Lecturesにて司会を務め、「遊びの相互行為における言葉の共創——定型性と新奇性の観点から——」を口頭発表。
- 内山加奈枝准教授は、3月27日、「ポール・オースターの描く多民族社会における他者との共生：『ミスター・ヴァーティゴ』と『スモーク』を中心に」を第35回日本ユダヤ系作家研究会(オンライン開催)にて講演。
- 馬場聡准教授は、3月27日、アメリカ文学会東京支部3月例会にて「ダム建設公共事業とコロンビア川表象史：ニューディールから冷戦まで」を講演。
- 早野薫准教授は、3月10日、“Reporting for and about a child: Addressing a child in talk between nursery teachers and parents”をCLIC (UCLA Center for Language, Interaction, and Culture)にて招待講演。
- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、Scholarly Approaches and Industry Perspectives (BKAS)を主催(オンライン開催)。“Advertising English-language Books on the East: Tactics, Tropes, and Taboos”を口頭発表。
- 井上亜紗助教は、3月27日、「『オーギー・マーチの冒険』をめぐるケアの倫理」を第35回日本ユダヤ系作家研究会(オンライン開催)にて口頭発表。
- 加藤彩雪助教は、3月、退職。